

あさくら  
ニュース

## 朝倉駅周辺のまちづくりについて

平成 28 年 11 月 1 号



朝倉駅周辺を、にぎわいの都市拠点とするための取り組みをお伝えします。

## 第 1 回朝倉駅周辺整備計画調査検討会議を開催しました。

市では、名鉄朝倉駅を核とした駅周辺地域を、にぎわいの都市拠点として整備するため都市計画の専門家、交通事業者、関係行政機関や地元住民で構成する「朝倉駅周辺整備計画調査検討会議」（座長：名城大学都市情報学部教授 大野 栄治<sup>おおの えいじ</sup>氏）の第 1 回会議を平成 28 年 10 月 14 日（金）午後 1 時 30 分から開催しました。

開会に先立ち、宮島壽男市長は、朝倉駅周辺整備の重要性について述べ、駅利用者や住民の利便性を高めるとともに、にぎわいの創造を図りたいとの意向を述べました。



あいさつする宮島壽男市長

## 朝倉駅周辺整備計画の検討の流れ

## 朝倉駅周辺整備計画基本構想の調査検討（平成 28～29 年度）

## 【朝倉駅周辺整備計画調査検討会議】

- 検討項目（予定）
  - ・開発エリア（3 街区）の基本的な機能の検討
  - ・配置する施設の検討
  - ・駅前広場等（駅前広場、歩行者動線等）の検討
- スケジュール（予定）
  - ・平成 28 年度は、2 回程度開催、
  - ・平成 29 年度は、3 回程度開催
  - ・第 5 回会議において、調査検討報告書を市へ提出



## 朝倉駅周辺整備計画基本構想の策定（平成 29 年度）

関係者（県・公安委員会・鉄道事業者・地元）との調整・協議  
（平成 30～31 年度）

事業着手（平成 32 年度以降）

## 計画対象地区の整備方向（案） 知多市の玄関口にふさわしい《顔》づくり

○リニア中央新幹線、西知多道路の整備による、広域的な交通軸の強化も視野に入れ、朝倉駅周辺における広域交通条件の向上を踏まえた、知多市の活性化を先導する都市の拠点づくり

## 中心拠点としての都市機能の誘導

都市拠点にふさわしい生活利便の向上  
コンパクトシティに向けた都市機能の集積  
市民が集い・活気あふれるまちづくり

## 居住者・来訪者の憩い、集いの場の提供

滞留できる駅前広場の実現  
駅周辺の混雑解消に向けた交通環境の整備

## 市の特性、個性を活かしたまちづくり

知多市に既にある都市機能との連携、地域資源の活用  
広域圏に知多市を売り込める交流拠点づくり

## 会議の内容

事務局から計画対象地区（駅西側の市有地＝約 10 ヘクタール）の整備の方向性、朝倉駅周辺の上位計画等での位置付けや現況、計画対象地区のポテンシャルの分析、事業者（住宅、商業、ホテル）からのヒアリングの概要を紹介した後、計画対象地区の整備イメージ図をたたき台として提示し、構成員からの意見を求めました。



朝倉駅前のロータリー

## 主な意見

- ・計画対象地区の各ゾーンの機能や配置する施設については、概ね評価する。
- ・駅から各施設への動線は、例えばペDESTリアンデッキの設置、雨が降っても傘を差さなくてもいいような工夫が必要である。
- ・計画対象地区に配置する施設については、人のにぎわいの的になる商業施設（ゲームセンター、ショッピングモール、映画館等）、子育て支援施設、図書館等が望ましい。
- ・この地域には大きな企業やスポーツ施設があるものの宿泊施設が不足している。ホテルの場所は、シビックコアゾーンでよいが、誘致は早めに整備をしないとほかの地域に流れて行ってしまうので、スピード感を持って進める必要がある。
- ・駅前ロータリー、広場については、滞留したい人、すぐに移動したい人、いろいろあるので、そういう人に配慮した施設配置、空間設計が望ましい。



ご意見・問合せ 参与室（都市計画課）

電 話 0562-33-3151

E-MAIL : sanyo@city.chita.lg.jp



# 朝倉駅周辺整備計画調査検討会議 第1回会議資料 要約版

## 【計画対象地区の上位計画における位置づけ】

- 第5次知多市総合計画（H23年度～H32年度）  
・駅を**拠点**とした**利便性の向上を図り、都市機能を充実**。
- 知多市都市計画マスタープラン（目標年次：H32年）  
・「都市拠点」として、現況の機能（行政、文化・スポーツ）の他に**商業・業務機能及び交通結節機能等の集積を図る拠点**としての位置付け。

【都市拠点】  
都市生活の中心となる行政、文化・スポーツ、医療、商業・業務等の拠点

## 【計画対象地区の現況】

- 都市マスタープランでは「**都市拠点**」として位置づけられているが、現状では大半が低未利用地となっている。
- 現市役所は老朽化が進んでおり、**庁舎建替えにあたっては、にぎわいを視野に入れたまちづくりが必要**である。
- 保健センター移転にともない、**にぎわいのまちづくりに資する跡地利用**が望まれる。
- 計画対象地区の北側の文化・スポーツ機能との**相乗的なにぎわい創造**が求められている。

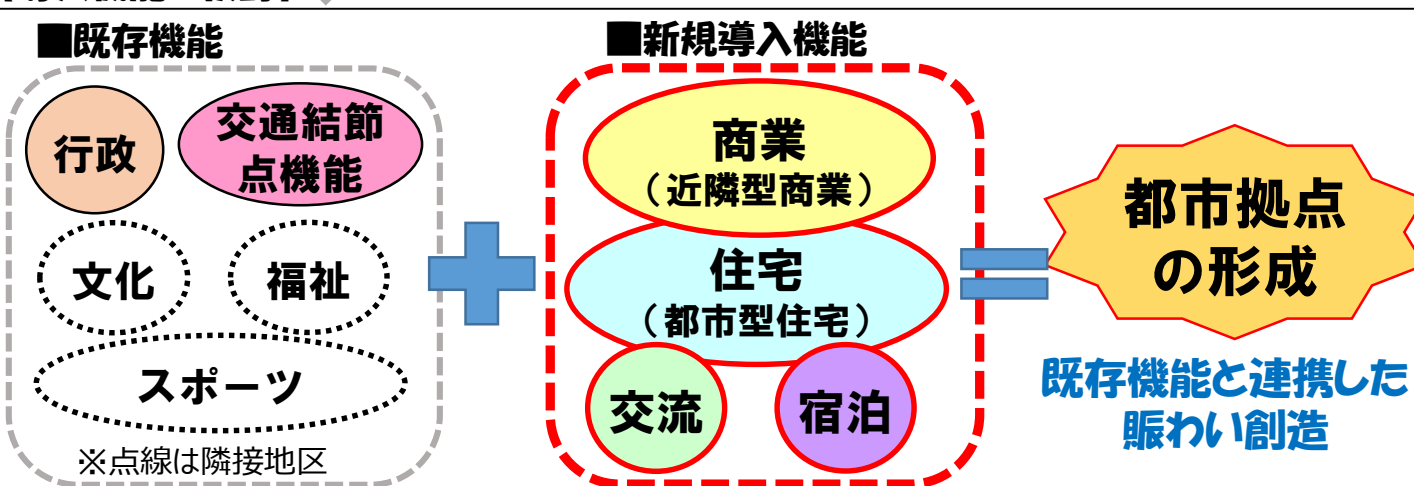
## 【ポテンシャル分析】

- **住宅系：高** ⇒ 世帯数増加傾向で、**市外への通勤通学が多く、駅至便の計画対象地区は優位**
- **商業系：高（近隣型店舗）** ⇒ 広域型店舗は隣接市に既に立地、市内店舗は**規模が小さいため、購買客は市外に流出**
- **宿泊系：中** ⇒ 県全体として、宿泊数等が伸びているが、**周辺地域でホテル建設が進められており、誘致にスピード感が必要**
- **交流系：高** ⇒ 交流施設（道の駅）の空白地域で、**競合する施設がない**
- **業務系：低** ⇒ 名古屋市内でも近年の業務床の急増により、**名古屋市内でも苦戦**

## 【事業者ヒアリング】

- 住宅：100戸程度集合住宅は可能      ○ 宿泊：条件次第で進出可能
- 商業：広域型は困難、近隣型なら可能

## 【導入機能の検討】



## 【計画対象地区の整備イメージ（たたき台）】

